

外来診療予定表

平成28年2月更新

医療法人SHIODA塩田記念病院広報誌



塩田記念病院だより

Vol.31 2016年2月号

医療法人SHIODA塩田記念病院 総務課発行 ホームページ: <http://www.s-fmc.jp>
〒297-0203 千葉県長生郡長柄町国府里550-1 Tel:0475-35-0099 Fax:0475-35-0098

病気の豆知識～慢性硬膜下血腫(まんせいこうまくかけっしゅ)～

慢性硬膜下血腫(まんせいこうまくかけっしゅ)とは、頭部外傷後通常3週間から2ヶ月後に頭蓋骨の下にある脳を覆っている硬膜(こうまく)と、くも膜との間に血液が貯まる病気です。

一般的には、転倒などの軽微な頭部外傷後の3週間以降に、血腫が脳を圧迫して、頭痛や片麻痺(歩行障害)、精神症状(認知症)など様々な症状がみられます。これらの症状は年代によってかなり差がみられ、若年者では主に頭痛や嘔吐、片麻痺、失語症などがみられます。一方、高齢者では認知症などの精神症状、失禁、片麻痺などが主な症状です。

認知症だけで発症する慢性硬膜下血腫もあり、比較的急に認知機能低下が見られた場合には本疾患を疑うことも重要です。単なる認知症と間違えられて自宅で様子を見ていたが実は血腫が貯まっていた、ということも珍しくありません。本疾患は治療可能な認知症として注目されております。

頭痛、片麻痺(歩行障害、上肢の脱力)、意欲減退、見当識障害(日付が言えないなど)、認知症が徐々に進行する場合、まず本疾患を疑うことが診断の第一歩です。画像診断として、CTスキャンあるいはMRIが有効です。

当院では、外来で画像検査をし、その日のうちに結果までお伝えする事が可能です。

血腫が非常に小さい場合、自然に治癒する事もありますが、基本的な治療法としては外科的治療が推奨されています。手術は局所麻酔で行います。側頭部を小さく切開して、頭蓋骨に1.5cm程度の穴を開け、血腫内に細いチューブを挿入して血腫を吸引した後にきれいな水で洗浄します。早ければ手術直後から症状の改善を認めます。

高齢化社会の中で慢性硬膜下血腫の患者さんは増えてきております。本疾患のほとんどは、正しく診断がなされタイミングを逸することなく治療が行われれば完治する予後のよい疾患です。上述した症状が少しでもみられて、原因がはっきりしていない場合は、是非一度画像検査を受けて頂きたいと思っております。



脳神経外科 医師
佐藤 陽人

診療科		月	火	水	木	金	土
総合診療部 (内科・外科 内視鏡 等)	午前	塩田総院長 (外科)	住吉 (外科)	★篠崎(内科)第1.2.3 村中(内科)第4 初診受付16:00まで	鈴木 (外科) 初診受付16:00まで	佐久間 (外科)	藤原(内科) 受付11:00まで 金田(内科)第1 斉藤(内科)第3
	午後	白銀 (外科) 初診受付16:00まで	住吉 (外科) (予約制)			—	—
	午前	—	君塚 (内科) 初診受付16:00まで	君塚 (内科) 初診受付16:00まで	—	正木 (内科) 初診受付16:00まで	大木 第2.4 (内科・肝臓内科)
	午後	—					—
脳神経外科	午前	足立 初診受付16:00まで	青柳副院長	小幡	—	青柳副院長	小幡
	午後		佐藤	小幡 (予約制)		青柳副院長 髄膜腫・ 神経鞘腫外来	—
整形外科	午前	塩田副院長	石井	塩田副院長	塩田副院長	石井 塩田副院長 第1.3.5	石井 塩田副院長 第1.3
	午後	—		石井		塩田副院長 第1.3.5 (脊椎・脊髄外科外来) 石井 第4	—
	午前	—	—	—	立岩 第3 初診受付16:00まで	吉峰 第2.4	山田 第1.3 蔵本 第2.4 金子 第5
	午後					金子(予約制)第3 吉峰 第2.4 初診受付16:00まで	—
循環器内科	午前	中津センター長	大橋	森口	高木 (中津センター長) 第3.5(予約制)	中津センター長	森口 第1 高木 第2 大橋 第3 中津センター長 第4
	午後	高木	交代制			森口	大橋
婦人科	午前	遠藤院長	遠藤院長	—	—	遠藤院長	遠藤院長
	午後		遠藤院長 第2.4.5				—
サイバーナイフ 外来	午前	—	—	—	—	宇野	—
	午後					—	—
脳神経内科	午前	—	—	—	—	西山 (予約制)	—
	午後						太田 第1.3 太田 第1.3(予約制)
耳鼻咽喉科	午前	小谷 初診受付16:00まで	—	—	—	★スミス 第1.3.5 初診受付16:00まで	交代制 第1.3.4.5
	午後						—
泌尿器科	午前	—	—	—	—	飯ヶ谷 初診受付16:00まで	—
	午後						—
皮膚科	午前	—	—	—	—	—	—
	午後						河原 受付14:30から

★印は女性の医師です。◎赤字は変更となった診療です。◎診療予定は変更となる場合があります。院内『お知らせコーナー』や『ホームページ』または、電話にてご確認ください。◎当日、急遽休診になる場合がありますので、ご了承ください。◎保険証は毎月確認させていただきますのでお持ちください。

受付時間:(月～金)8:30～11:30/13:30～16:30 (土)8:30～11:30

予約専用ダイヤル:0475-35-0002 (月～金)8:30～17:00

サイバーナイフ専用ダイヤル:0475-35-0109 (月～金)8:30～17:00

いきいき教室のご案内

先月より始まりました、いきいき教室。今回は、「糖尿病」をテーマに開催しております。今月は薬剤師による糖尿病に関わる薬についての講演です。皆様、お気軽にご参加ください。

【演題・講師】「糖尿病とくすり」 薬剤科 足立かおり
【日時】2月24日(水) 14:30～(1時間程度)
【会場】塩田記念病院2階カフェスペース
【問い合わせ】0475-35-0099(代表) 栄養科 戸矢宛



参加無料
申込不要

栄養士のひとりごと

寒さ厳しい毎日ですが、お元気でお過ごしでしょうか。

今年は二十四節気にちなんだ食材や食文化をお話することにいたしました。二月(如月)には立春(4日)と雨水(19日)があります。立春を過ぎて降り積もった雪は少しずつ解け始め、また降る雪には時折雨がまじる時期であるこの時期には春を告げる食材が出始めます。

今回は春を呼ぶ魚といわれる「鱈(さわら)」についてお話しします。

鱈は出世魚であることはご存知でしょうか。関東では「さごち」→「なぎ」→「さわら」、関西では「さごし」→「やなぎ」→「さわら」と呼ばれます。鱈は春に産卵のため沿岸に近づくため春を告げる魚とよばれており、11月から3月がおいしい時期とされています。

鱈の栄養素としては良質なたんぱく質は勿論、EPAで動脈硬化予防・DHAで脳の活性化作用があります。これらn-3系脂肪酸は血管と神経を保つアンチエイジング作用も期待でき、認知症リスクを下げるとも言われています。また炎症を抑える作用もあるため、アレルギー症状や関節炎の痛み改善も期待できるとか。他にナトリウム排出を助けるカリウムやカルシウムの吸収を助けるビタミンDなども含まれています。

春を感じられ、栄養素もいいこと尽くしの鱈、おいしく食べるコツもお話しします。

上品で淡泊な味わいの鱈は香り食材と相性抜群です。木の芽焼き、西京焼きなどが一般的ですが、実はチーズをトッピングして焼いたり、トマトと煮込んで美味しく頂けます。

まだまだ寒い日が続くので、しょうが焼きでさっぱりしながら体を温めたり、ネギやミツバを加えて香りを楽しむ酒蒸しなど、いかがでしょうか。

次回、皆様にお話しする頃には寒さも緩む時期です。どうぞお楽しみに。

管理栄養士 戸矢 静華



リハビリテーションコラム～脳梗塞の前兆～

脳梗塞(のうこうそく)とは、脳の血管が極度に狭くなったり詰まってしまうことで、脳に栄養や酸素が行き渡らなくなり、脳の組織が部分的に死んでしまう病気です。脳梗塞の症状の現れ方は個々によって違い、障害を受けた部分によって、身体が動かなくなったり、意識を失ったりと様々です。

脳梗塞は「脳軟化症」とも呼ばれ、脳細胞は壊死すると溶けてしまうためにこう呼ばれます。徐々に症状が進行して、脳血管性痴呆になる場合もあります。命が助かったとしても後遺症として介護が必要なケースも少なくなく、福祉の面でも大きな課題を伴う疾患です。

病気には、前兆と言うものがあります。おかしいことに早めに気づけば発作を予防することができますが、多くは見落としてしまいがちです。前兆があっても20分前後で症状が治ってしまうことも多く、おかしいと思いつつも、すぐに症状がなくなるので、気に留める人が少ないのが現状です。

以下の症状が頻繁に起こるようであれば、すぐに病院に行くようにしましょう。

- ①片方の手足がしびれる。
- ②急に手の力が抜けて、持っているものを落としてしまう。
- ③めまいがして真っ直ぐに歩くことができない。
- ④ろれつが回らなくなる。
- ⑤力はあるのに歩くことができなかったり、立っていることができない。
- ⑥人が話していることをよく理解することができない。
- ⑦文字が思うように書けない。
- ⑧物が二重に見える。
- ⑨片側の目に幕がかかったようになり、一時的に物が見えにくくなる。

覚えておくといいいのは、脳梗塞の前兆として、『言語障害』『嚥下障害』『運動障害』『平衡障害』『感覚障害』『視覚障害』などが起こることです。チェックする方法として、「FASTテスト」や「上肢のバレー徴候」「ミンガッツィーニ試験」などがあります。

「FASTテスト」

Face: 顔の麻痺

口を広げてイーと言い、口角の片側が上がりなければ要注意

Arm: 腕の麻痺

掌を上にして両腕を肩の高さまであげて目をつぶりキープ。片腕が下がってきたら要注意

Speech: 言語の障害

短い文章を言ってみる。

例えば、「太郎が花子にリンゴをあげた」などが言えるかどうかをチェック

Time: すぐ受診

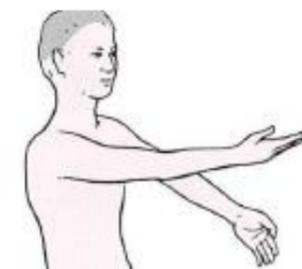
FASTテストのどれか1つでもできなければ、即座に救急車を呼ぶ

「上肢のバレー徴候」

上肢の不全麻痺をみる方法両腕を手の平を上にして

前方に腕を挙げる。

眼を閉じてそのままの位置を保つ。障害側の腕は次第に落ちてくる。

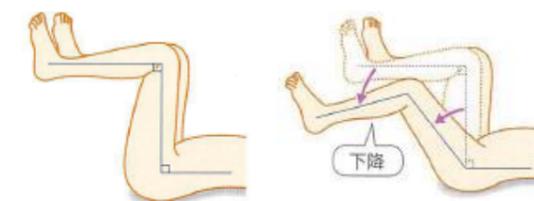


「ミンガッツィーニ試験」

仰向けで両方の足を挙げて股、膝関節をほぼ90°

に曲げて空中で保持する。

障害側の下肢が自然と落下してくる。



理学療法士 石渡 正浩

正常

異常

医療公開講座 絶賛申込受付中!

皆様から大変好評を頂いている医療公開講座。17回目の今回は、「足の動脈硬化」についてです。心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす要因となる動脈硬化は、実は足にも悪影響を及ぼすのです。足の動脈硬化について循環器内科 森口医師と中川看護師より講演を行います。

また、心臓血管センター長 中津医師より昨年3月に新しくなった心血管造影室の紹介も行います。この機会に参加して、自分の足に注目してみたいかでしょうか。

講演の前には、動脈硬化を検出できるABI検査を無料実施します。抽選10名様までとなりますが、是非お試しください。

■第17回医療公開講座「放っておくと危険!足の動脈硬化」

【演題・講師】

①15:05~15:35 「見逃すな!足の不調が招く怖い病気“下肢閉塞性動脈硬化症”」

循環器内科 心臓血管センター 医師 森口暁

②15:40~16:00 「自分の足へ関心をもっていますか?~予防のためのフットケア~」

看護師 中川原里美

③16:05~16:15 「写真で巡る新しくなった“心血管造影室”」

循環器内科 心臓血管センター センター長 中津裕介

【特設コーナー】

①ABI無料検査 (抽選10名 抽選時間 14:30~14:50)

②森口医師による個別相談コーナー

【日時・会場】

平成28年2月27日(土)15:00~ (受付 午後2時30分)

塩田記念病院 1階ロビー

【申込・問い合わせ】

0475-35-0031(9:00~17:00 ※日・祝を除く)



参加無料
申込制